99 分枝 branching 14

http://branching.jp

ブランチング 15 発刊 2015 年 12 月 9 日
ブランチング 16 発刊 2016 年 3 月 9 日
ブランチング 17 発刊 2016 年 6 月 9 日
お問い合わせ・入稿先 system@branching.jp

せみ

Masato YAMAMOTO 1976 –
山本正人

小雨が降る真夜中の2時。
仕事の合間、緊張の糸が切れて、
仕方なくタバコに火を付けながら
真っ暗な窓に向かって煙を吐き出す。
そこに向かって煙を吐き出す。

近所の窓の明かりはとうに消え、
聞こえてくるのは、
異性を求めるコウモリの音と
雨樋からトタン屋根に滴る雨水の無機質なリズムだけだった。

とそこに突然
どうやら蝉のばたつく羽音が現れた。

その羽音は何とも悲しげで、
生きている証を誇り知らしめるため
最後の力を振り絞っているかのように、
はたまた、生きるとする本能が
動く限り必至に手足を操っているように。

とうとうあにしがみついているだけの力が無くなり
なす術も無く地面に落ちたのか。

それとも、不意に飛び立ったせいで
蜘蛛の巣にでも捕まってしまったか。

暗闇の中で、その状況は全く見て取れないが、
とにかく、その命が尽きようとしているのはハッキリと分かった。

周りでは、
コウロギがさも涼しげに音色を奏でている。

タバコの火が消える頃には、
蝉のはたつきは次第に夜の闇に飲み込まれ
消えていった。

ふと、遠い昔の記憶が甦る。

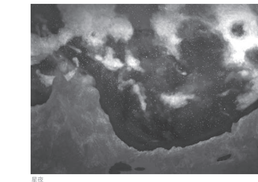
「虫だって人間と同じ命なんだよ」
そう教わったはずなのに、
部屋を飛び交う蝿を無造作に潰す。

人間が生きるために、
動物や植物の命を買う食物連鎖のヒエラルキーは理解できた。
だけど蝿は邪魔なだけでしょ。

子供の頃に大人に教わった違和感だった。

欠けたるは欠けたるがままに

Ryota HIRAMATSU 1976 –
平松良太



原画
2182 x 3333 mm 油彩／キャンバス 2014

ジョン・クランコの作品と私との出会いは 10 年の月日を遡る。激烈にしてドラマチックな極めた同年代のマクミランと比べ、クランコの表現は何処か控えめでさっぱりとしている。しかし、それはダンサーの身体表現を中心に観たときの話かもしれない。微細な動きの引き、人物の配置や光の当て方一つからも、人間に注がれた深い眼差しと審美眼とをいくつもの点に感じる事が出来る。

クランコが描いたのは上流階級の複雑さを秘めた男性の物語だった。私が描いたのは「もっと平凡な憂か」だと思う。
どこの憂かは、わからない。
夢であるのかもしれないし、他者の記憶かもしれない。
何もかもわからなくなったその日にふさぎ感琥珀色の蒸留酒かもしれない、
まだ開かぬ瓶と手で精一杯に見あげた空だったのかもしれない。

ピアノは人間だ。
生まれと環境、経過や接点が音に影響する。
同じ楽器でも個体によって、その響きや感触は全て違う。
そこ調律師の片念な調整と個性が入り、スタジオやホールからは特有の表情が生まれる。
それらの変化を細心の注意をはらって、エンジニアがオーガナイズする。
そして、最後が演奏者だ。
ピアノを弾くという事は、一番外壁に近い部分で仕事をするということだと思う。
自分は最高の塗装工を目指している。
しかし、彼には塗装工として、完璧に徹る以上に求められている事がある。

ピアノを人とするのならば、このエルバムは三人の役者が語る一本の映画と言っても良いかもしれない。
思うに任せないことがあるのは人もピアノも一緒だ。
録音の初日、調律時にインペリアルの弦が断線した。
歪んだ音を予測できないアクションも、それはそのピアノの生き様といえる。
ピアノは決して魔法の箱などではない。
故に、私はその平凡さを愛する。

ジョン・クランコの作品に出会った日、霧がかった世界が一瞬、晴れたような気がした。
以来、クランコは私のアイドルだった。
彼の芸術の前に、自分の作品は足元にも及ばない。
だからこそ、この作品を彼に捧げたいと思う。

RYOTA HIRAMATSU
SOLO LIVE TOUR
2
8.26 / sat /
venue / Salone Fontana
open 18:00 / start 18:30
adv. 3,000 / door 3,500
10.8 / thu / 東京都
venue / 表参道 YAMAHA スペース2
open 18:00 / start 18:30
adv. 3,000 / door 3,500 / 会場限定 2,500
10.12 / sat / L'AUTRE MAISON 西ノ岡
open 17:00 / start 17:30
adv. 3,000 / door 3,500 / 会場限定 2,500
10.17 / sat / 横ノ井
open 16:00 / start 16:30
adv. 3,000 / door 3,500 / 会場限定 2,500
10.18 / sun / 長谷寺
open 16:00 / start 16:30
adv. 3,000 / door 3,500 / 会場限定 2,500
nightpedal2@gmail.com
チケット予約・お問い合わせ
http://www.ryota-hiramatsu.com

平松良太 Ryota Hiramatsu 作曲家・ピアニスト
1976 年生まれ
千葉県在住

http://www.ryota-hiramatsu.com

Solo Live Tour '2』
10.17 / at Hasedera（Shinonoi,Nagano）
10.12 / at L' AUTRE MAISON Nishinoura（Tatebayashi,Gunma）
10.08 / at Space Y（Niigata）
09.26 / at Salone Fontana（Sejiku,Tokyo）

Ryota Hiramatsu Solo Live Tour 2015 flyer

体験

Tomoro KAWAI 1976 –
川合朋郎

息をとめて海に潜るとチリチリチリと耳が鳴る
夜空に star と星の音がする
海底の砂の数と夜空の星の数は同じか

川合朋郎 Tomoro Kawai
1976 年生まれ 滋賀
東京藝術大学大学院修了
http://tomorokawai.com
展覧会情報
2015 8/22–10/25 D15 @FFS_lounge gallery
2015 9/20–10/25 naganoalternative @FFS

移越任転

Tomoya MACHIDA 1976 –
町田智哉

ふかいとなりのモノがみえる。
それまで見えなかった部分が見えてくる。
なぜ見えなかったのか。
なぜ見えなかったのか。
なぜ見えなかったのか。
それは、
ふかいとなりのモノが、
ふかいとなりのモノが、
ふかいとなりのモノが